



# e-La Voz

「エー・ラ・ボス」と読みます

## HCJB『アンデスの声』 日本語放送 メールマガジン (第30号)

2005年6月4日発行

### 海外経験日本人ネットワーク — Central Conference 2005に出席して —

1990年12月、米国イリノイ州アーバナで学生を中心とした第16回世界宣教大会がひらかれました。その大会に出席した約30人の日本人学生たちが集まって共通の悩みだった「帰国に対する不安」について話し合ったことから、自分以外の日本人クリスチャンとの交わりを大事にしたい、帰国後もお互いに励まし合いながら、成長しつづけたい、との願いが高まり、「アーバナ会」の誕生をみました。その後、JCFN (Japanese Christian Fellowship Network) へと名前が変わり、当時の30名から2,000名近いメンバーにまでふくれあがり、その半数以上が現在日本で積極的な活動をくりひろげています。とくに海外でひらかれる地域集会、キャンプ、修養会などは、同じ環境にある同世代の若者たちが、ともに日本語で聖書を学び、交わりを深めることができる広場となっています。

初夏を告げるライラックの白紫の小さな花が、ひんやりとした風にそよぐ週末、シカゴ郊外の大学でのJCFNの修養会(Central Conference 2005)に招ねかれて出席してきました。車で迎えにきてくれた尾城義弥さんと会うのは半年ぶりでした。最近シカゴからデトロイトに転勤されましたが、米国中西部の中心的ボランティア会員として相変わらず活発な働きをすすめておられます。父親の尾城秀雄師は埼玉県の浦和福音自由教会の牧師時代から「アンデスの声」の長年の支援者で、関東地区でHCJBリスナーの集いをひらいたときには教会をつかわせてもらったことがあり、その時の写真はペリカードになりました。

講師のひとり鈴木パウロ師は、「クリスチャン・ライフをリフレッシュ！」をテーマにS(自省)C(告白)O(服従)P(祈り)E(期待)について話したあと、用意したSCOPEのラベルの貼られた小瓶を出して鍵のことは忘れないようにと全員に手渡しました。パウロ師は日系三世、両親は宣教師として日本で長年伝道されましたが、最近定年でハワイに帰国されました。ご夫妻には私たちの子供がまだ小さかった頃、ハワイの海岸に連れていってもらったことがあります。その時、波打ち際でいっしょに遊んだ男の子がパウロだったわけです。「覚えていますよ、私も。それから妻キャロルは旧姓を村上と言って、尾崎先生たちを知っているそうです。」キャロルさんの父親は村上ドクターで、1960年代にエクアドルのHCJB病院で歯科医として奉仕したことがあり、はじめてお会いしたのは、1963年で私たちが宣教師候補として米国を巡回中でした。シアトルの自宅に泊めていただいたばかりか、旅から旅をつづける私たちのためにサンフランシスコまでの列車の切符を買ってくださり、とても感激したのを思い出しました。当時まだ小さかったキャロルの胸にも父の愛の行為が印象に残っていたのでしょうか。パウロ&キャロル夫妻は来年には再度日本へ向かいHi-BA(高校生伝道)の協力宣教師として働くことになっています。



私は世界宣教をテーマに電波宣教師41年の体験レポートをしましたが、そのあとで茶菓子を囲んでみんなでおしゃべりしていると、「ええっ？ あの『アンデスの声』の！」ふりむくとミシガン州から来た新井章弘さんでした。「まさか、こんなところで」といいながらアメリカの大学を出て今は社会人となった新井さんが小学6年生にタイムスリップ。「あの時は親にねだって高級受信機(日本無線)を買ってもらいましたよ。BCL(海外放送受信)は趣味の王様。もう夢中でしたね。ペリカード、懐かしいなあ。なかには海賊局もあってカードが放送中の船の写真だったりして。ジャミング(妨害電波)では苦しめられた挙句、金を出せばスクランブルを解いてもらえるという情報まで流れたのですから。」そばにいた友人が、大きくうなずいて「そうか、海外局をきいていたからなのか。君が今ここにいるのは。」「うん。それはあるだろうな。」と本人もBCLブームの頃を思い出しながらその影響力を認めているようでした。

主講師だったニュージャージー州の日本人教会の錦織学牧師は「効果抜群！心を潤すビタミンJ(イエス)」を主題にして、海外生活を体験した若者たちが帰国後も信仰に堅く立ち、社会悪に染まらず、教会でも奉仕に励むキリストの弟子として成長していけるようにと、聖書から励ましを与えました。

昨今海外で暮らす日本人の数は増え続けており、留学、ビジネス、国際結婚などで海外生活をするなかで、みずからの姿をみつめ直し、神の愛にふれる人々の数も年々加えられています。3日間の修養会を終えて、50名の参加者は大学キャンパスで記念撮影をしたあと、再会を約束してそれぞれ米国各州に散っていきました。彼らが日本に帰国するとき、海外と日本の環境と文化の違いによる「逆カルチャー・ショック」に苦しむことがないように、力づけ励ますネットワークづくりは着々と広がっています。これら海外経験で神を知った若者たちが、こんどはその神の愛と恵みを祖国に知らせる、輝かしいにない手として、21世紀に大きくはばたいて欲しいものです。

HCJB日本語放送担当

在 尾崎一夫 久子

---

## 【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://www.hcjb.org/japanese/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「[フォーラム](http://www.hcjb.org/japanese/forums/)」(<http://www.hcjb.org/japanese/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「[メールマガジン e-La Voz らいぶらり](http://www.hcjb.org/japanese/mmz/)」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

---

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。



Copyright © 2005 by HCJB. All rights reserved.

日本語ホームページ: <http://www.hcjb.org/japanese/>

Eメール: [kozaki@hcjb.org](mailto:kozaki@hcjb.org)

郵便の宛先:

Mr. & Mrs. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.

---